

## がんばり屋のおばあちゃん

平成元年度 六年女児

夏休みに、ラジオ体操がありました。はっきり言うて行くのはいやでした。朝は、ゆっくり寝ていたかったからです。ときどき、おじいちゃんやおばあちゃん達をつくづくうらやましく思うことがあります。おばあちゃん達は、学校に通わなくてもいいし、会社にも勤めていないものなあと思ったからです。

毎朝、いつもの時刻になるとたくさんの人が公園に集まってきます。まだ、幼稚園の子どもや、お母さんや、おじいちゃん、おばあちゃん達など。もう私は六年生になりました。本当は、最上級生として、みんなの手本として、毎日きちんやらなくてはなりません。でも私は、気持ちとは反対に、だらけながらやってしまうことがとても多いです。どちらかと言えば、下級生の子の方が、きちんやっているようにさえ思えてきます。

ところで、この夏休みに公園のはじっこでラジオ体操

をしているおばあちゃんを何度か見かけました。私と友達は、いつもその光景を見ては、まねをしたり、からかったり、笑ったりして楽しんでいました。ジャンプしてもはねることができず、腰を曲げようとしても曲げられないおばあちゃんを私たちは聞こえないような小さい声でからかって遊んでいたのです。私は、その間、すっかりラジオ体操をすることを忘れていました。

よく朝も、また次のよく朝もあのおばあちゃんは公園に来ていました。そのたびごとに私たちは、あのおばあちゃんを見ては、笑ったり、まねをしたり、からかったりしました。私には、ラジオ体操をするのではなくて、別の意味でラジオ体操に行くことが毎日の楽しみとなっていました。

次の日も、また次の日も、私たちを笑わせるかのように、おばあちゃんは毎日毎日やって来るのでした。金峰で合宿訓練のあった次の日、私は、疲れのせいとか何だか体がだるくて、ラジオ体操に行く気になりませんでした。でも、家の外が何だかざわざわしてきたので、

「あっ、そろそろ集まってきたんだな。」と思っているうちに、玄関の方から

「樹里さーん。」と、誘いに来る声が聞こえてきました。仕方なく、準備をしてラジオ体操に行きました。すると例のおばあちゃんが、もう先に来ているではありませんか。見るたびにからかってしまうはずが、何だか今日は笑えなくなっていました。逆に、私はおばあちゃんのことを感してしまいました。下手でも、いっしょうけんめいやっている姿を、ラジオ体操が終わるまで見ていました。ラジオ体操が終わると、

「からかったりして、悪かったなあ。ごめんなさい。」と心の中で何度もくり返して言いました。今まで私はラジオ体操を遊び半分で作ってきました。おばあちゃんは私と違って、たとえ下手でも、いっしょうけんめいに体操をしているのです。毎朝、毎朝、おばあちゃんは、公園にやってくるには、ラジオ体操をします。そんなおばあちゃんに、私は、だんだん恋えんしくなってきました。

夏休みが過ぎ、運動会の季節がやってきました。今年は、

八百メートル走に出場することになりました。前の日の夜、私は公園の周りを四周くらい走ってみました。それだけでもう、ゼーゼーする程苦しかったのです。次の日の朝に、もう一度練習してみようと外へ出たとたん、ふと公園の方を見てみると、だれかがラジオ体操をしています。だれだか見てみると、何と夏休みのラジオ体操にも来ていた、あのおばあちゃんだったので。公園の周りを走りながら、私はおばあちゃんのことをずっと見ていました。私は、心の中で、

「あのおばあちゃんは、夏休みのラジオ体操だけでなく、ふだんもがんばっているんだなあと思いました。」以前に早起きして、新聞を取りに行ったときにも、公園で、ラジオ体操をしているところを見かけました。こんなにいっしょうけんめいにやっているが、私にはとても愛らしく見えました。

そのときから私は考えるようになりました。夏休み中からかったり、ばかにしていた私の方が、ばかなことをしていたんだと反省しました。毎日、早起きをして、外で体

操をするだけでも、十分りっぱなことだと思います。何か一つ目標を決めて実行することは、簡単なようでとても難しいことなのです。それには、いろんな苦しみやつらいこともたくさんあるはずです。私は、あのおばあちゃんのように、自分自身で目標をきちんと決めて、がんばりたいと思います。そして、最上級生として、下級生のよい手本となるようにがんばりたいと思います。

みなさんも、自分のめあてに向かって精いっぱい努力をしてほしいと思います。そうすれば、必ずよい結果が出るはずです。私たちの学校の中にも、一人でも多くのおばあちゃんのようながんばり屋さんが増えることを楽しみにしています。